

## 「COVID-19 ワクチンモデルナ筋注」調製時の注意点（9.01 改訂版）

広域接種で使用するワクチンは、「COVID-19 ワクチンモデルナ筋注」となります。

ファイザー社のワクチンとは取り扱い方法が全く異なりますので、必ずマニュアル通りの対応をお願いします。

※希釈は不要です。

※1 バイアルから 10 人分を吸引可能です。

※接種用量は 0.5mL です。

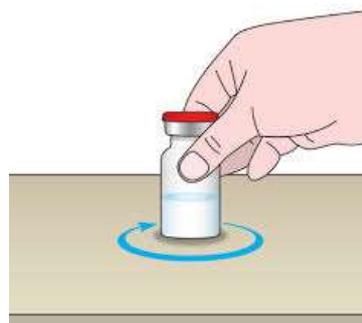
(1) 各会場には解凍済みのワクチンバイアルが用意されています（接種直前は常温で 15 分放置する必要があります）。作業中は直射日光を避けて、手袋と消毒を徹底し清潔操作を行ってください。

(2) 吸引は1 バイアル毎に確実に行ってください。

(3) 解凍していることを確認した後、泡立たないように穏やかにバイアルを振り動かし混和してください。  
※決して激しく振り混ぜないでください。

### 混和方法の一例

バイアルの底を机から離さないようにしながら円を描くように回してください。



### (4) 混和後の薬液を目視で確認してください

COVID-19 ワクチンモデルナ筋注は白色から微黄白色の懸濁液で、白色もしくは半透明の微粒子を認めることがあります。目視で点検した際に変色していたり、異物の混入やその他の異常を認めた場合は、そのバイアルのワクチンは使用しないでください。

(5) 本数の間違いを避けるため、まず白色トレーに 10 本分の空シリンジを準備してください。（白色トレーもアルコール消毒を行ってください）

(6) 1 バイアルからシリンジ 10 本分を吸引します。

混和済みのバイアルから 0.5mL（1 接種分）の接種液を接種用シリンジに吸引してください。

\* 吸引の際には再度、バイアル中の薬液が混和されていることを確認してください。混和されていない場合、泡立たないように穏やかにバイアルを回しながら混和してください。この時、決して振り混ぜないでください。

\* ワクチン（0.5ml）を吸引する際、余分な気泡は抜くが、その際シリンジを爪や指で激しくはじか（弾か）ない（優しく叩く）。

\* 余分な量を吸わないようにバイアル内で調整してください。

\* この操作にあたっては、雑菌が迷入しないように注意してください。

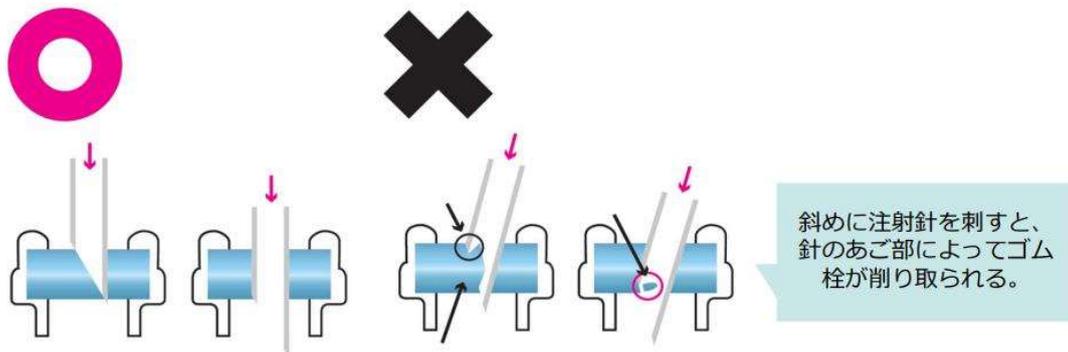
\* 栓を取り外したり、あるいは他の容器に移して使用しないでください。

### (7) 「コアリング」の防止について

(i) 注射針の先端は、横から見ると斜めになっています。ゴム栓に対して斜めに針を刺すと、針のあご部でゴム栓が削り取られてしまうことがあります。これを「コアリング」といいます。

(ii) 「コアリング」は、刺しながら針を回転させたりすることでも起こります。何度も穿刺する場合は、同じ場所に針を刺すと前回刺した穴の側面を削り取ってしまい、「コアリング」の危険性が高まります。さらに、ゴム栓の材質や形状、注射針の径や形状にも影響されます。

(iii) 注射針を正しくバイアルに穿刺するには、ガイドマーク(中心円)の内側に、**針を垂直に押し込むことが大切です。**



(8) 吸引したシリンジはトレーに並べ、10本分吸引したことを確認して他の薬剤師とダブルチェックを行ってください。(最後に遮光シートをかぶせる)

接種ブースと連携をとりながら、適宜ワクチンの吸引と接種ブースへの分配を行ってください。(県職員対応)

\* 吸引後は 25℃以下の環境で、直射日光を避け、6 時間以内に接種します。

(9) 吸入後の空バイアルは、最後に個数の確認を行い、まとめて廃棄とします。(県職員対応)

\* 残ったバイアルも含め、空バイアルは勝手に持ち帰ったり、廃棄しないでください。

(10) 吸引でのトラブルがあった場合には、すぐに現場責任者へお伝えください。終了時間が近づいた際には余剰な分注が起こらないようご注意ください。

(11) 初回使用から 6 時間以上経過したものは廃棄してください。(県職員対応)

その他の注意：

\* バイアルラベルの空欄(二次元コード横など)に初回の薬液吸引日時を記載してください。

\* 遮光して 2~25℃で保存してください。

\* 残液(薬液)を再凍結しないでください。

\* 外箱開封後は遮光して保存してください。

\* 接種に使用する器具は、ガンマ線等により滅菌されたディスポーザブル品を用い、被接種者ごとに取り換えてください。

沖縄県薬剤師会 (令和 3 年 7 月 15 日改訂)

沖縄県薬剤師会 (令和 3 年 8 月 18 日改訂)

沖縄県薬剤師会 (令和 3 年 9 月 01 日改訂)